

特教研 B-255

平成21年度～22年度

専門研究B「特別支援学校における障害の重複した子ども一人一人の教育的ニーズに応じる教育の在り方に関する研究」

**特別支援学校における複数の種類の障害を併せ有する児童生徒に関する調査
調査のまとめ（速報）**

平成22年11月

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

謝辞

特別支援学校に在籍する児童生徒等の障害の重度・重複化、多様化が進んでいます。その状況は、重複障害学級の在籍者に留まらず単一障害学校に在籍する児童生徒等を含め、これまでの障害種の重なりだけでなく、自閉症等発達障害、弱視や難聴などの感覚障害を併せ有する者への対応も課題となっています。

また、障害種を超えた特別支援学校への制度の変更に伴い、各学校ではこれまで以上に多様化する障害の重複した幼児児童生徒へ適切な支援や指導を行っていく必要性が高まっています。

本研究では、特別支援学校に在籍する児童生徒の障害の重度・重複化、多様化の現状を把握し、一人一人の教育的ニーズに対応した適切な指導や支援を行うために必要となる事項と、その対応のための研究課題を整理・検討することを目的としています。

本調査は、それらの研究課題の整理・検討を進めるための資料など基礎的情報を得ることを目的としています。

本調査を行うにあたり、調査への回答をいただいた各特別支援学校はもとより、各学校を設置する教育委員会等関係の方々にも、ご理解とお力添えをいただきましたことを心より感謝申し上げます。

この度、本調査の結果の概要を整理し、調査のまとめ（速報）を作成いたしました。

お力添えをいただきました皆様に感謝を申し上げますとともに、ご報告とさせていただきます。

なお、本調査の結果については、引き続き、整理と分析を行い、本研究活動の研究成果として、研究成果報告書に掲載する予定です。

I 調査概要

1. 調査の趣旨・目的

特別支援学校における複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の状況と教育体制について把握するとともに、今後の重複障害教育の実践に資する研究課題を整理するための資料とすることを目的としています。

2. 調査設計

(1) 調査対象

全国の特別支援学校（小学部・中学部を設置する学校）分校・分教室を含む 1,030 校（悉皆調査）

※研究所が各都道府県政令指定都市教育委員会の協力を得て作成している平成 22 年度特別支援学校設置一覧（暫定版）を基に調査票を送付した。

(2) 調査の内容

第 1 部 学校の基本的事項

第 2 部 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育体制に関する事項

第 3 部 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の状況及び教育課程に関する事項

(3) 調査の方法

調査対象とする特別支援学校長（分校、分教室の長）宛てに、調査票を郵送し、回答を、E-mail、FAX、返信用封筒にて郵送での返送を求めた。（調査票電子ファイルは、本研究所 Web サイトからダウンロードすることとした。）

回答者を校長（分校長・分教室の長）あるいは、校長（分校長・分教室の長）が指名する教職員で、本調査に関わる学校（分校・分教室）の全体の状況を把握する立場にある者とした。

(4) 調査基準日

① 学校の基本情報については、平成 22 年 5 月 1 日を基準日とした。

② 調査各項目については、特に説明がない限り、平成 22 年 4 月 1 日以降、調査回答日までの状況について回答を求めた。

(5) 調査期間

平成 22 年 7 月 31 日付けで調査票を送付し、8 月 31 日までを目安として返信・返送を求めた。

Ⅱ 調査結果（速報）

平成 22 年 9 月 22 日（水）までに回収された調査票を対象に整理し、調査結果（暫定値）を速報する。

第1部 学校の基本的事項

送付総数 1,030校（分校・分教室を含む） 回答校総数 752校（平成 22 年 9 月 22 日現在） 回収率 72.8%

回答された学校の障害種別毎の学校数（教育部門を含む）を視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱及び複数障害種別（「複数」と呼称）の 6 区分で整理した。以下、この区分にしたがって各データを整理した。

なお、各学校が対象とする障害種については、本研究所が各都道府県等教育委員会の協力を得て作成している平成 22 年度全国特別支援学校一覧（暫定版）のデータに拠っている。

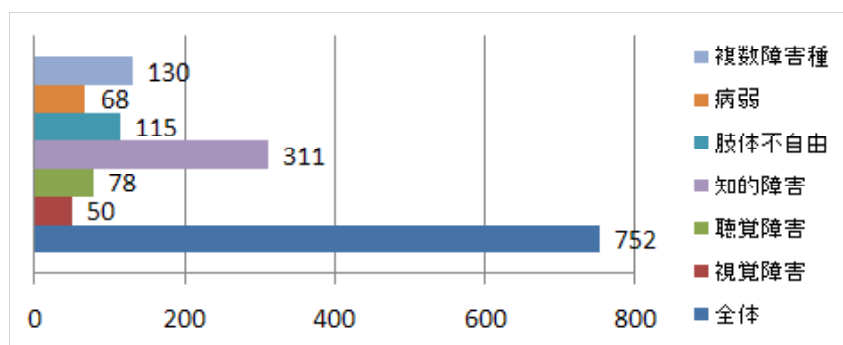


図 1 - 1 学校が対象とする障害種別毎の回答校の実数（校）

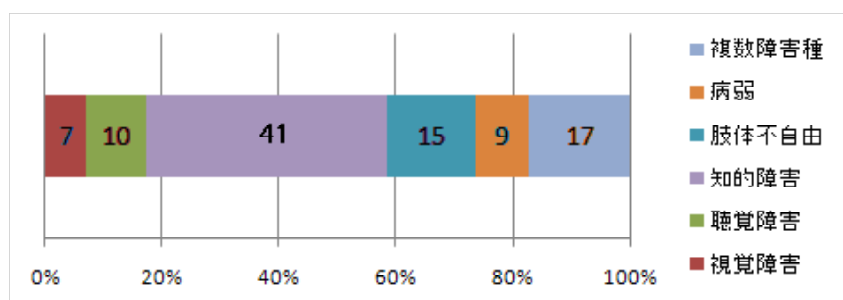


図 1 - 2 学校が対象とする障害種別毎の回答校の割合（%）

第2部 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育体制に関する事項

1. 専門的知識や技能のある教員について

各学校に、専門的知識や技能のある教員について、①視覚障害の専門的知識や技能のある教員がいる。②聴覚障害の専門的知識や技能のある教員がいる。③知的障害の専門的知識や技能のある教員がいる。④肢体不自由の専門的知識や技能のある教員がいる。⑤病気の専門的知識や技能のある教員がいる。⑥自閉症の専門的知識や技能のある教員がいる。⑦学習障害の専門的知識や技能のある教員がいる。⑧注意欠陥多動性障害の専門的知識や技能のある教員がいる、の各設問について複数回答で求めている。

この調査では、各学校が対象とする障害種以外の障害についての尋ねているが、データの整理上、当該障害種については、100%として表示している。

(1) 特別支援学校全体

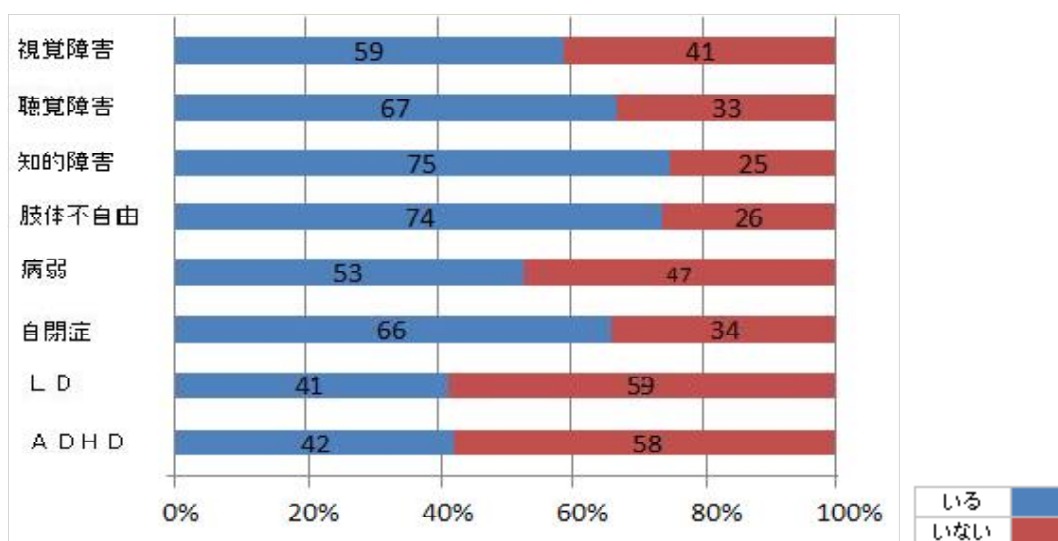


図2-1 専門的知識や技能のある教員の所属する割合（全体）（グラフ内の数値は%）

(2) 視覚障害（単一）を対象とする特別支援学校

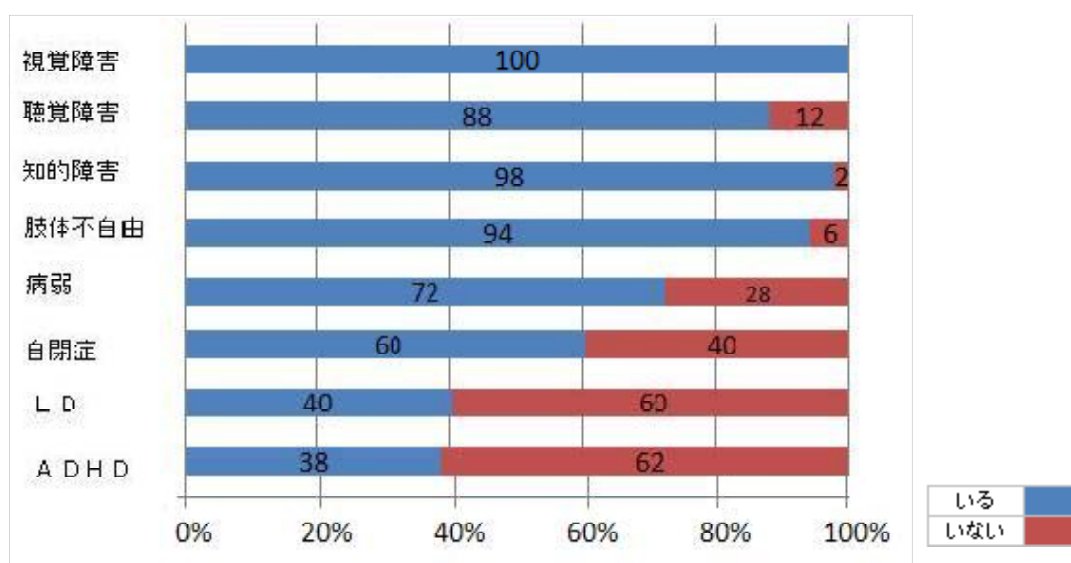


図2-2 専門的知識や技能のある教員の所属する割合（視覚障害）（グラフ内の数値は%）

(3) 聴覚障害（単一）を対象とする特別支援学校

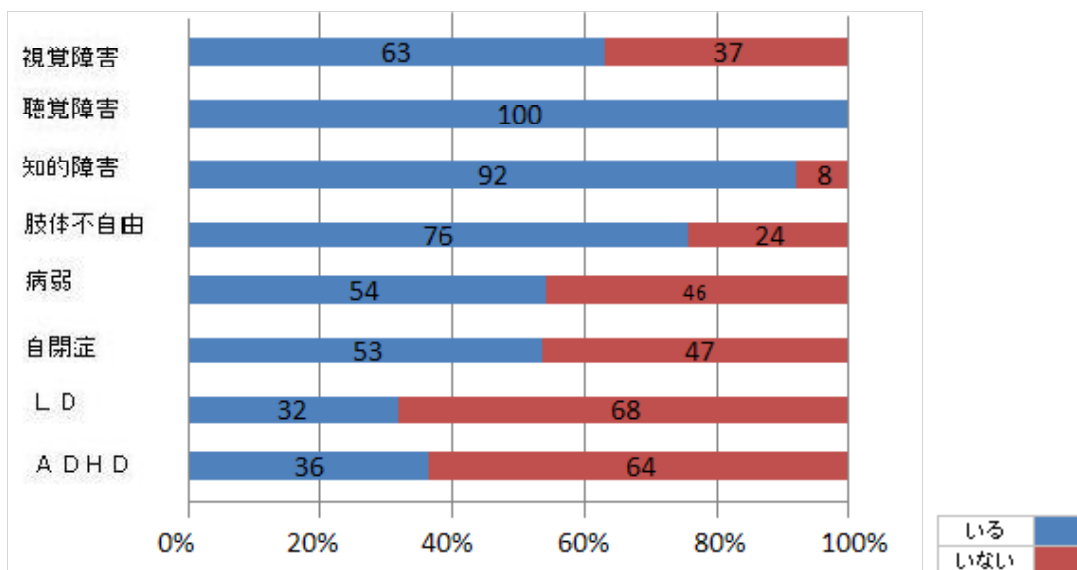


図 2-3 専門的知識や技能のある教員の所属する割合（聴覚障害）（グラフ内の数値は%）

(4) 知的障害（単一）を対象とする特別支援学校

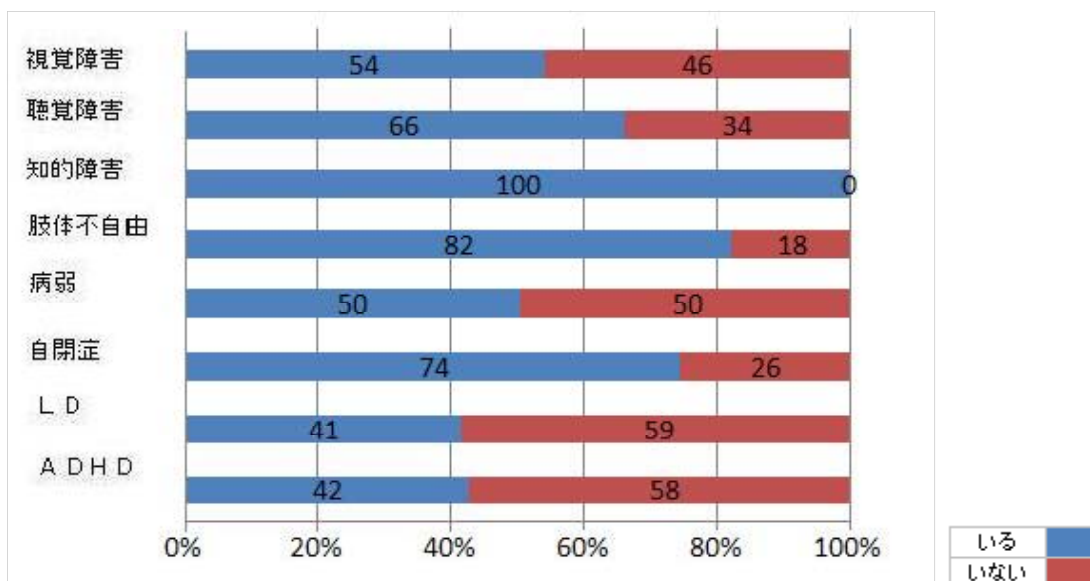


図 2-4 専門的知識や技能のある教員の所属する割合（知的障害）（グラフ内の数値は%）

(5) 肢体不自由（単一）を対象とする特別支援学校

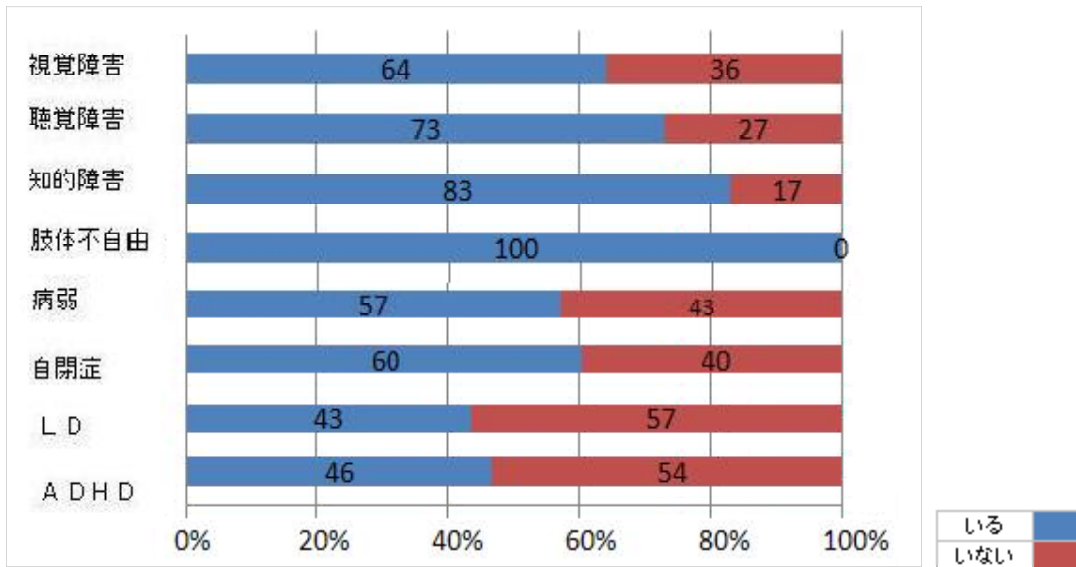


図 2-5 専門的知識や技能のある教員の所属する割合（肢体不自由）（グラフ内の数値は%）

(6) 病弱（単一）を対象とする特別支援学校

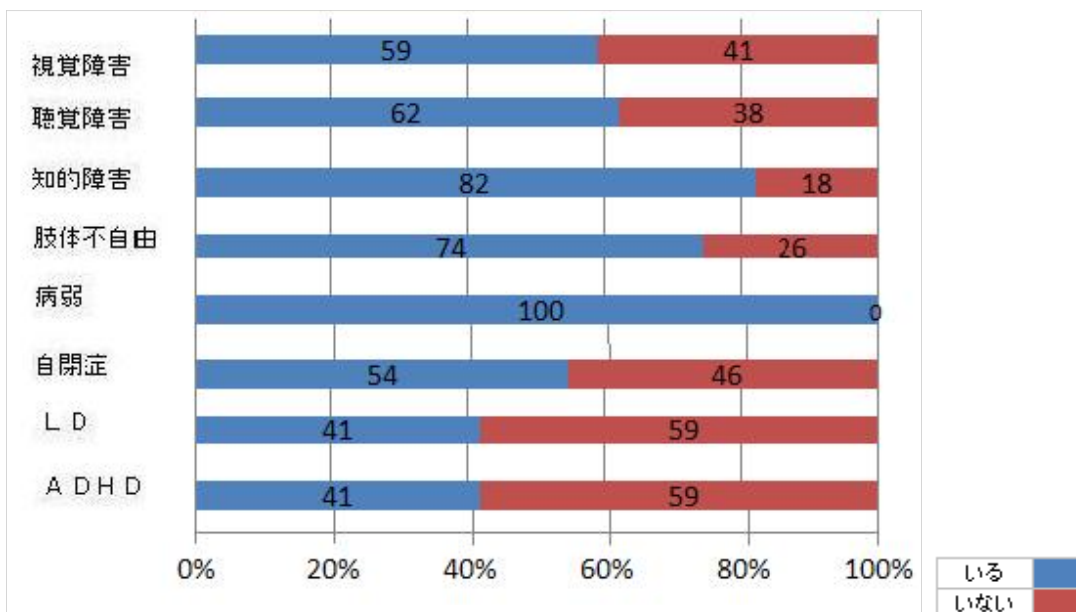
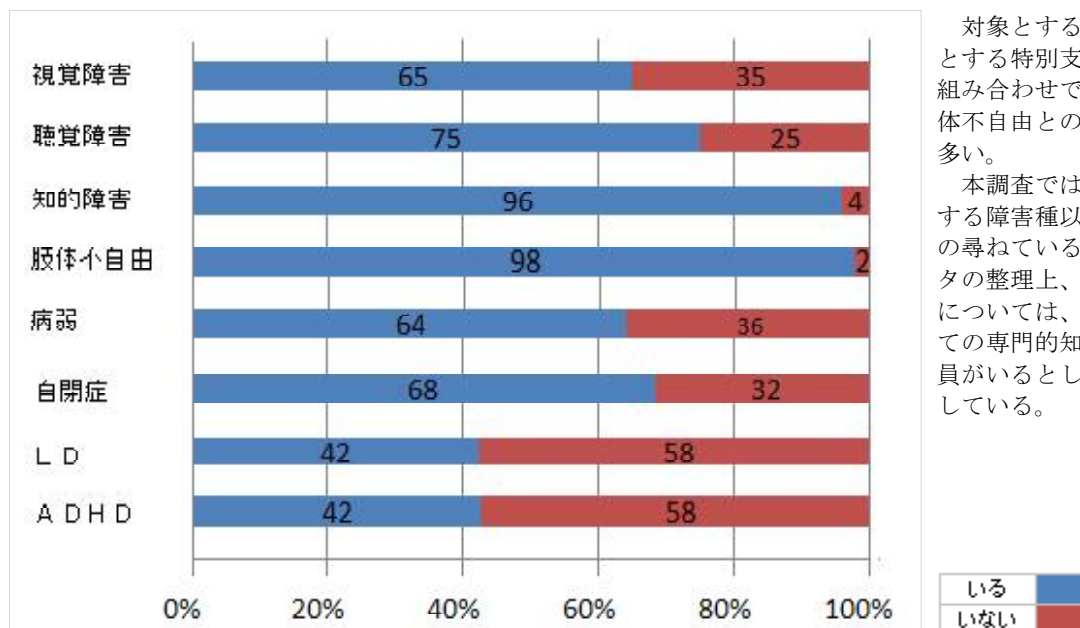


図 2-6 専門的知識や技能のある教員の所属する割合（病弱）（グラフ内の数値は%）

(7) 複数の障害種を対象とする特別支援学校



対象とする複数障害種を対象とする特別支援学校の障害種の組み合わせでは、知的障害と肢体不自由との組み合わせが最も多い。

本調査では、各学校が対象とする障害種以外の障害種についての尋ねているが、ここではデータの整理上、対象とする障害種については、当該の障害種についての専門的知識や技能のある教員がいるとして、データを整理している。

図2-7 専門的知識や技能のある教員の所属する割合（病弱）（グラフ内の数値は%）

2. 専門職の活用について

専門職等の活用については、①理学療法士（PT）、②作業療法士（OT）、③言語聴覚士（ST）、④臨床心理士、カウンセラー等の心理の専門家、⑤医師（障害に関わる専門医）、⑥看護師、⑦介護福祉士、介護ヘルパー等介護の専門職、⑧学校が対象とする障害種以外の障害種を対象とする特別支援学校の教員について、それぞれ、A：毎日勤務している、B：定期的に関わっている、C：必要に応じて関わっている、D：関わっていないの4項目について該当する項目を複数選択で尋ねている。

A：毎日勤務している、B：定期的に関わっている、C：必要に応じて専門職等を活用している のいずれかを選択した割合（活用している割合）を示した。また、活用している場合について、A：毎日勤務している、B：定期的に関わっている、C：必要に応じて専門職等を活用している の活用の状況についてその割合を示した。

(1) 特別支援学校全体

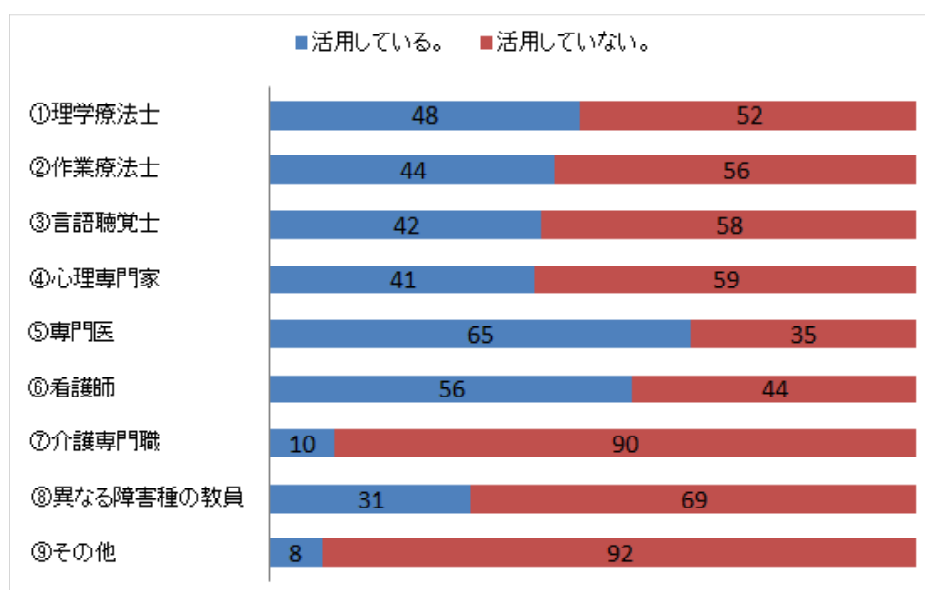


図3-1-1 専門職等を活用している割合（全体）（グラフ内の数値は%）

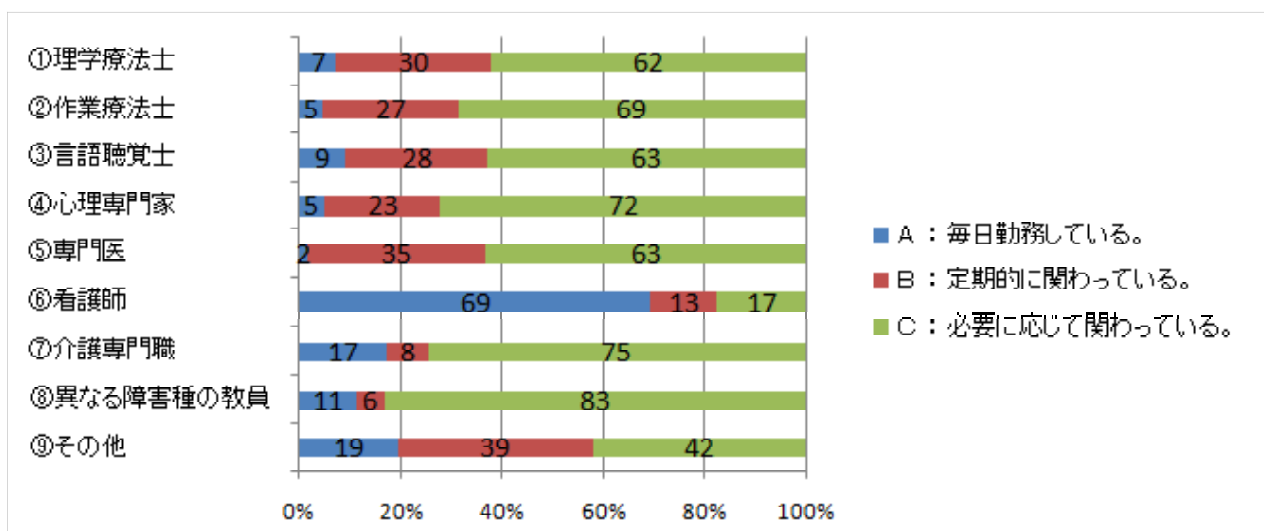


図3-1-2 専門職等の活用の状況（全体）（グラフ内の数値は%）

(2) 視覚障害（単一）を対象とする特別支援学校

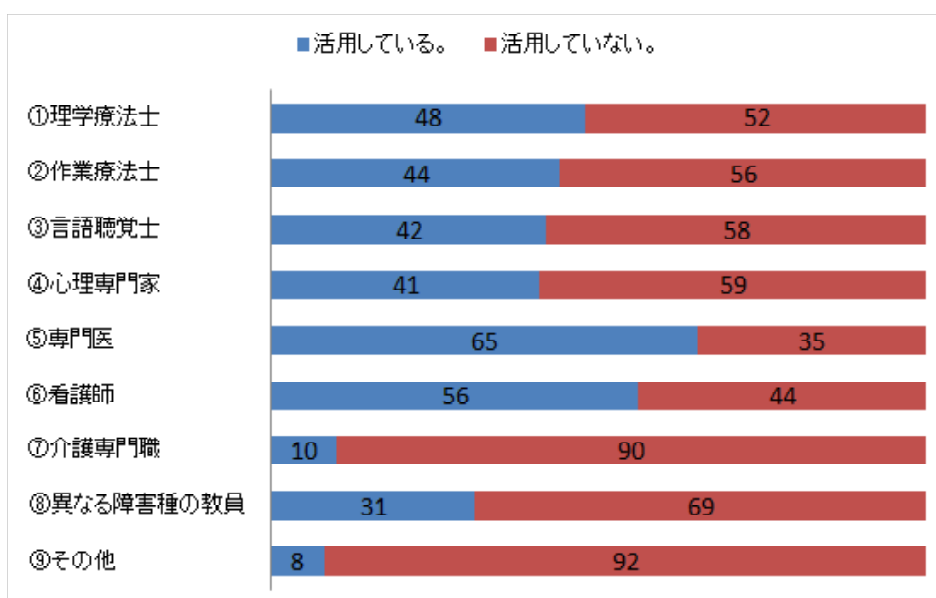


図3-2-1 専門職等を活用している割合（視覚障害）（グラフ内の数値は%）

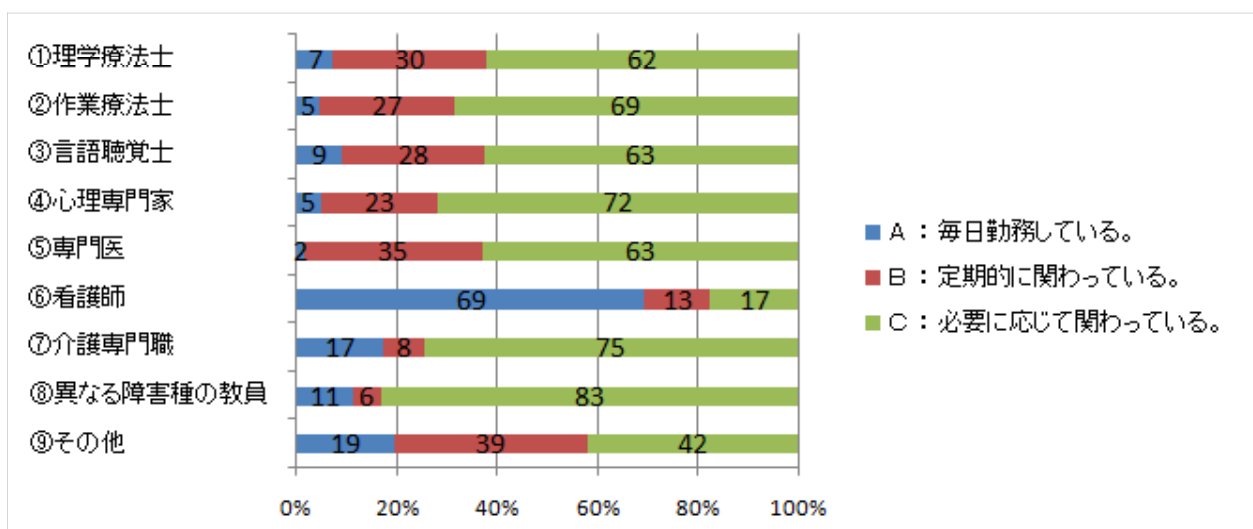


図3-2-2 専門職等の活用の状況（視覚障害）（グラフ内の数値は%）

(3) 聴覚障害（単一）を対象とする特別支援学校

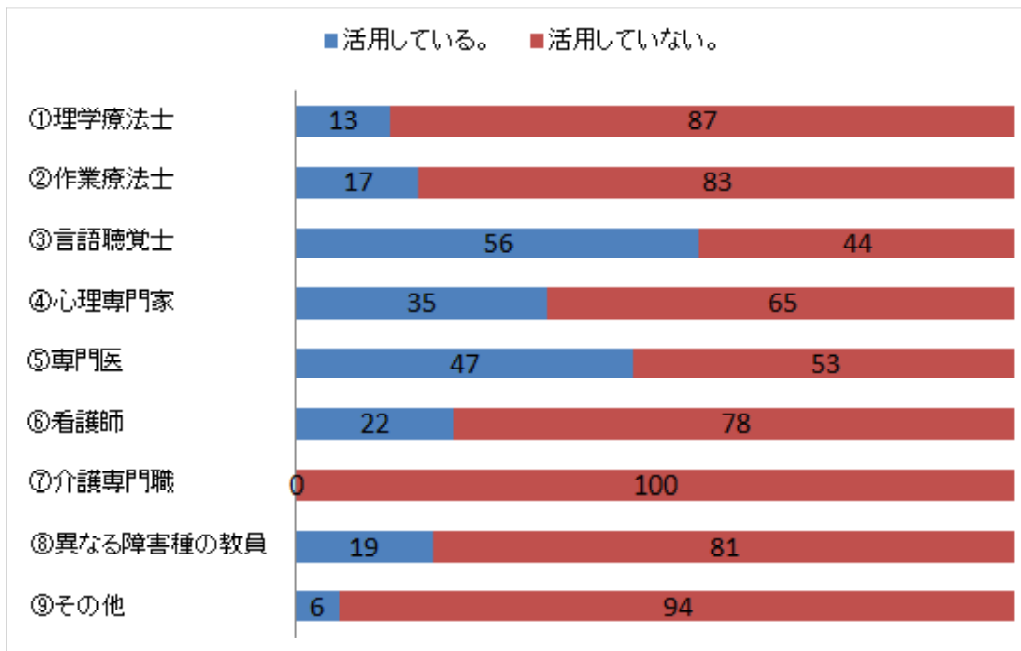


図 3-3-1 専門職等を活用している割合（聴覚障害）（グラフ内の数値は%）

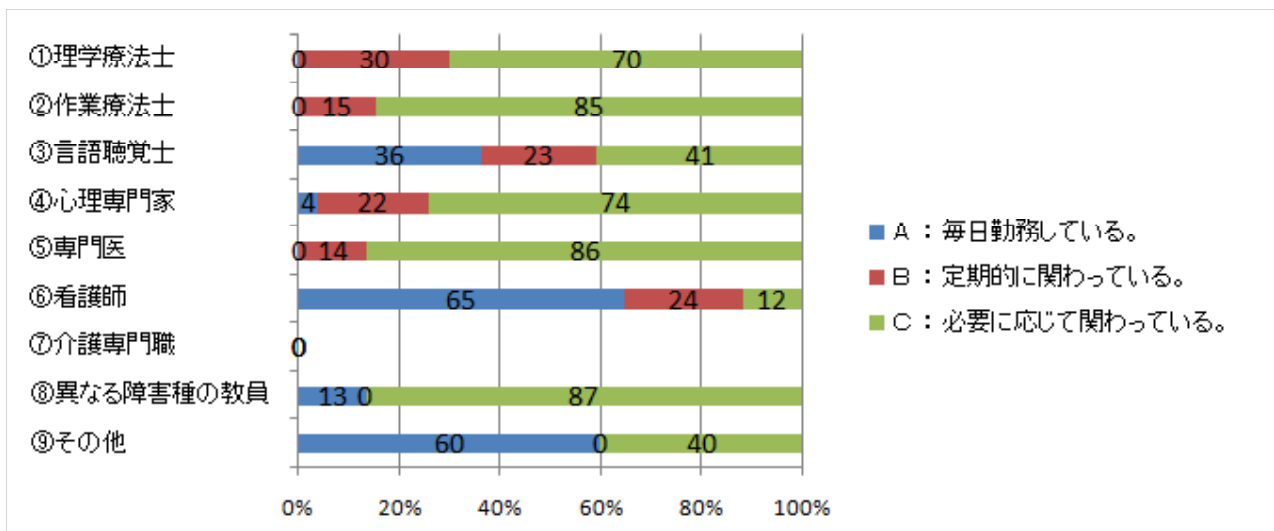


図 3-3-2 専門職等の活用の状況（聴覚障害）（グラフ内の数値は%）

(4) 知的障害（単一）を対象とする特別支援学校

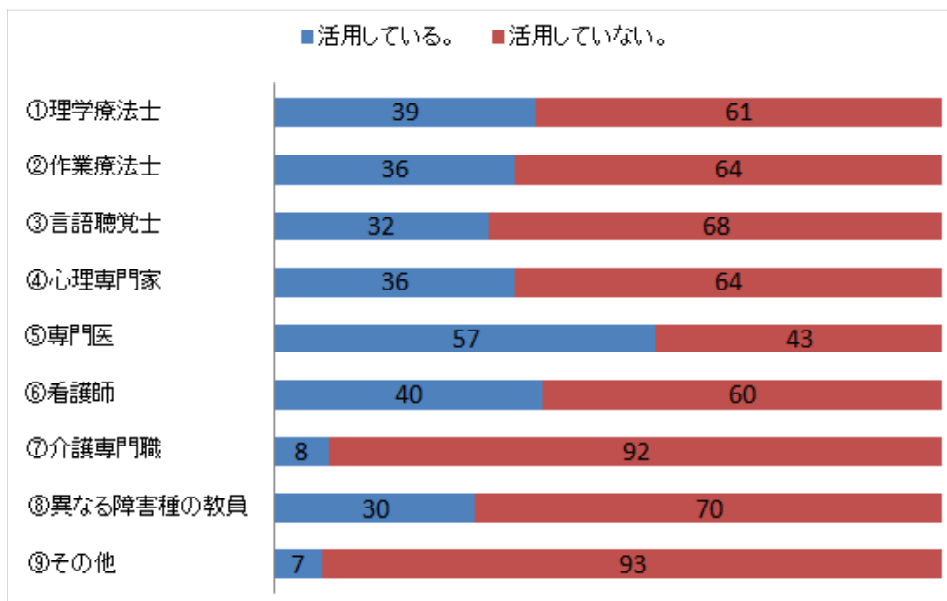


図3-4-1 専門職等を活用している割合（知的障害）（グラフ内の数値は%）

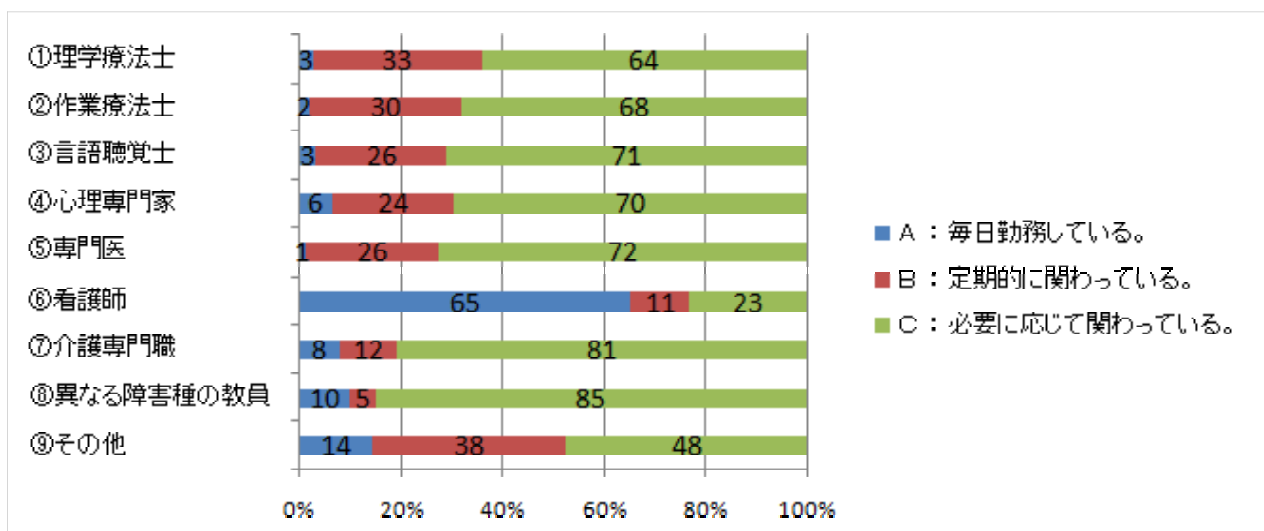


図3-4-2 専門職等の活用の状況（知的障害）（グラフ内の数値は%）

(5) 肢体不自由（単一）を対象とする特別支援学校

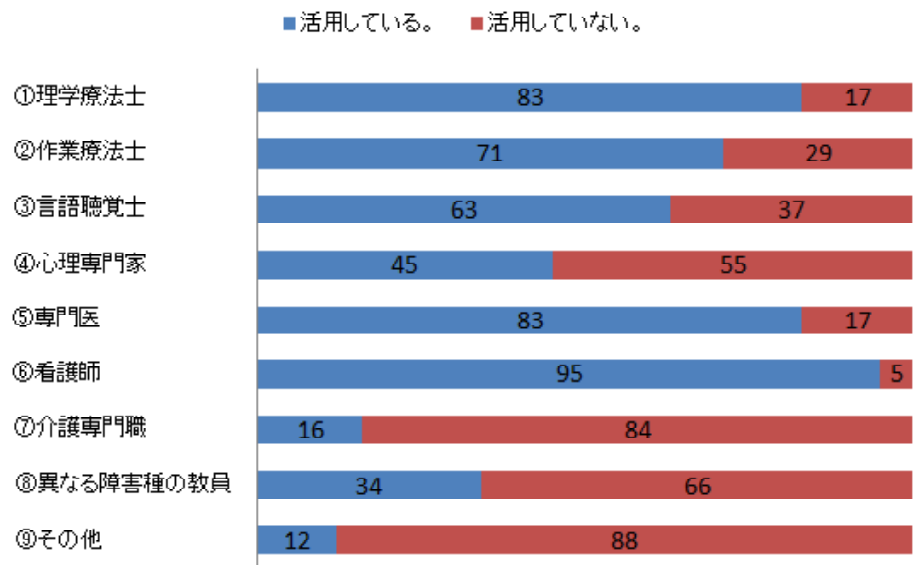


図 3-5-1 専門職等を活用している割合（肢体不自由）（グラフ内の数値は%）

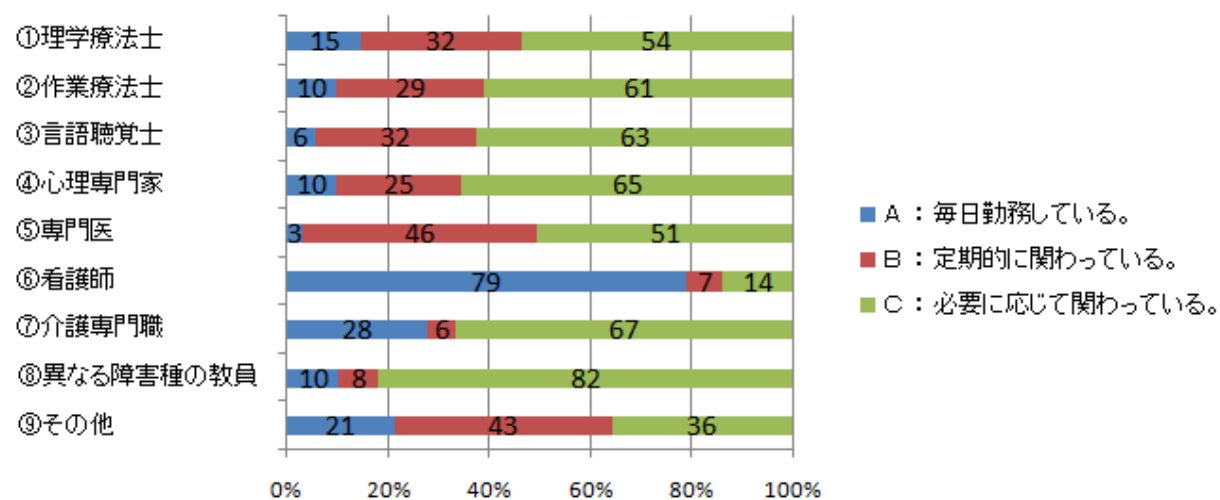
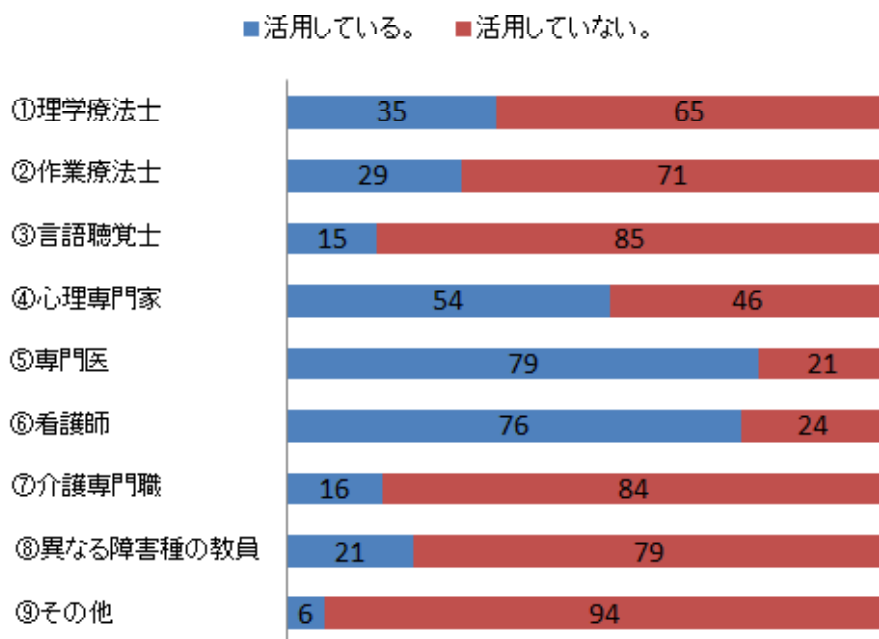


図 3-5-2 専門職等の活用の状況（肢体不自由）（グラフ内の数値は%）

(6) 病弱（単一）を対象とする特別支援学校



病院内に設置されている分教室や病院に隣接している学校がある。医師や看護師について、勤務はしていないが毎日関わりがあるという回答があり、それらの場合について「活用している」に含め、整理を行った。

図 3-6-1 専門職等を活用している割合（病弱）（グラフ内の数値は%）

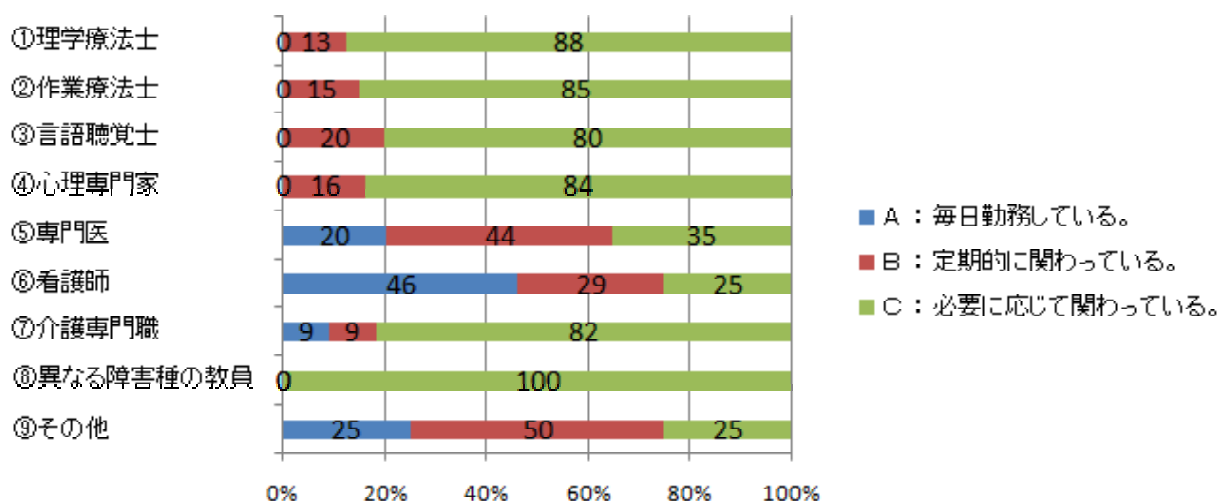


図 3-6-2 専門職等の活用の状況（病弱）（グラフ内の数値は%）

(7) 複数の障害種を対象とする特別支援学校

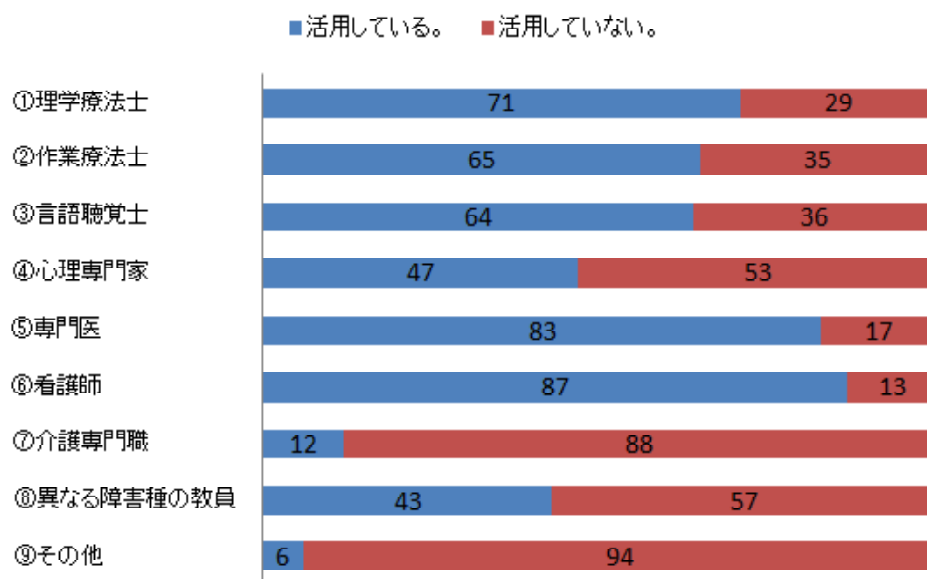


図3-7-1 専門職等を活用している割合（複数）（グラフ内の数値は%）

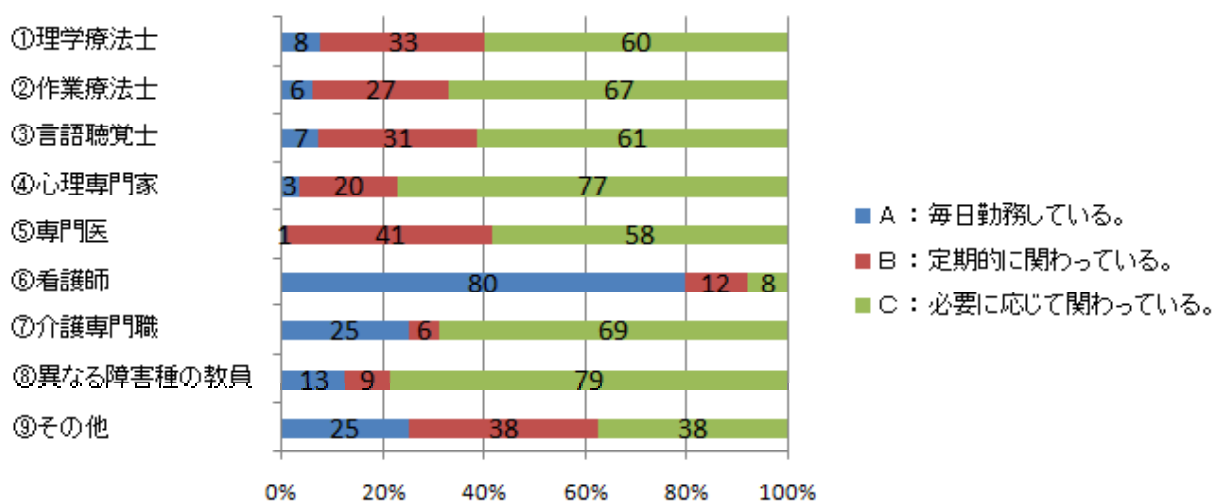


図3-7-2 専門職等の活用の状況（複数）（グラフ内の数値は%）

3. 児童生徒の教育に対応するための指導体制について（専門家の活用方法）

専門家の活用方法に関する学校体制について、①専門的な知識や技能のある教師や専門職が参加する事例検討会を実施している。②専門的な知識や技能のある教師や専門職が指導を担当する教員への指導や助言などを行っている。③専門的な知識や技能のある教師や専門職が児童生徒への専門的な指導等を行っている、について、複数回答で尋ねている。

(1) 特別支援学校全体

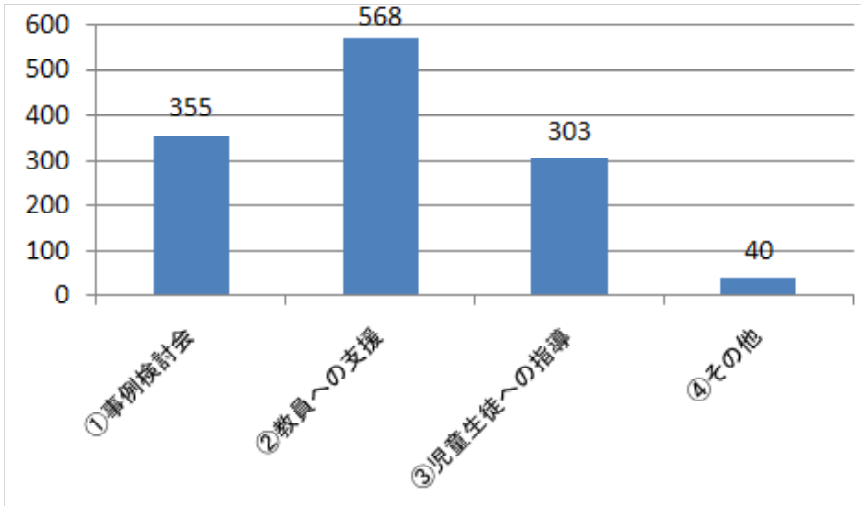


図4-1 専門職の活用の方法（全体）（グラフ内の数値は学校数）

(2) 視覚障害（単一）を対象とする特別支援学校

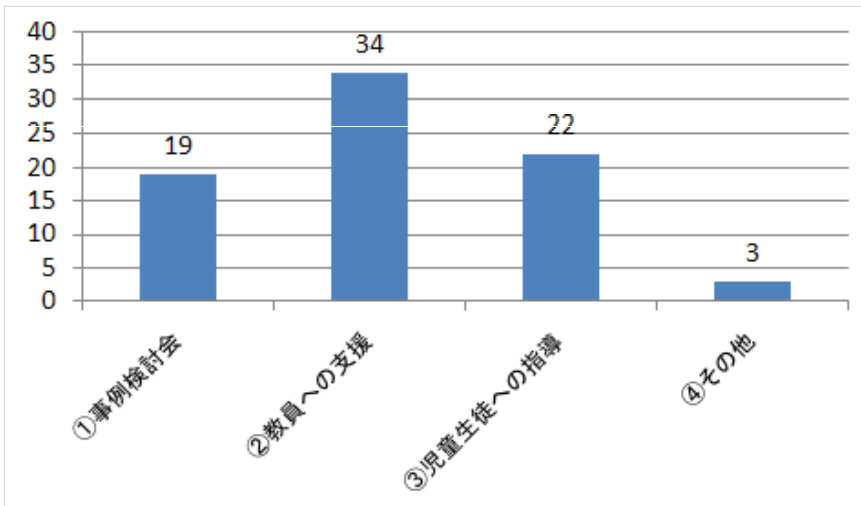


図4-2 専門職の活用の方法（視覚障害）（グラフ内の数値は学校数）

(3) 聴覚障害（単一）を対象とする特別支援学校

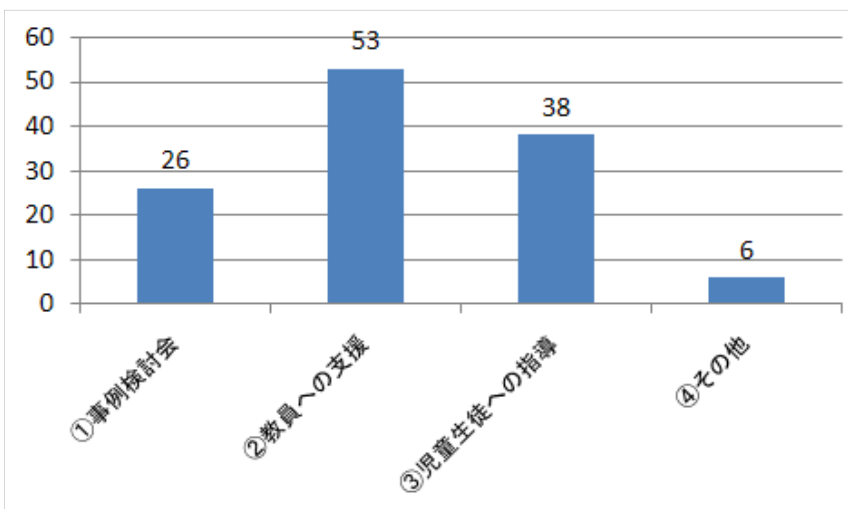


図4-3 専門職の活用の方法（聴覚障害）（グラフ内の数値は学校数）

(4) 知的障害（単一）を対象とする特別支援学校

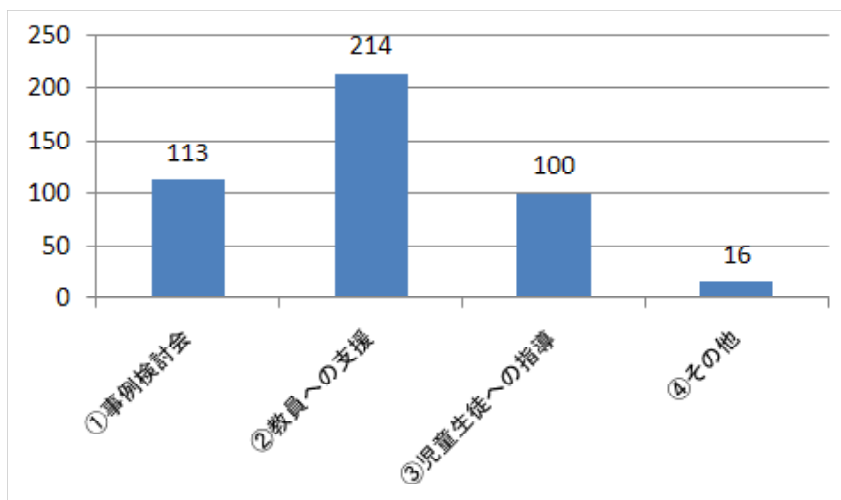


図4-4 専門職の活用方法（知的障害）（グラフ内の数値は学校数）

(5) 肢体不自由（単一）を対象とする特別支援学校

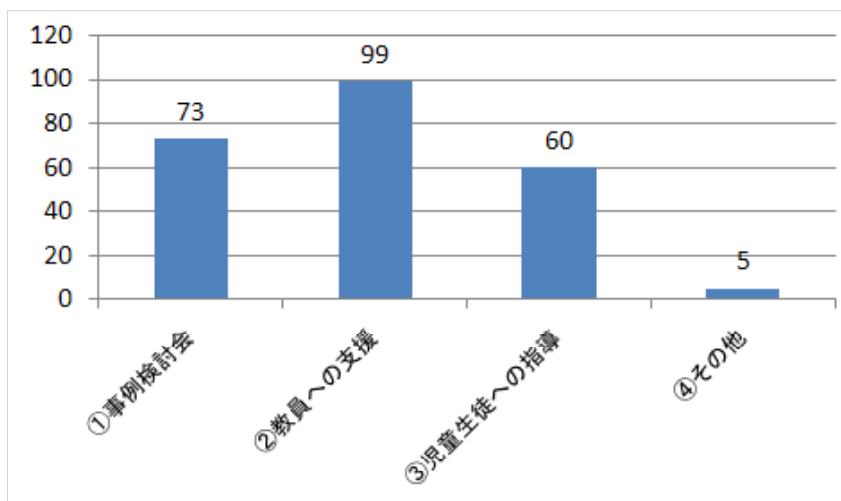


図4-5 専門職の活用方法（肢体不自由）（グラフ内の数値は学校数）

(6) 病弱（単一）を対象とする特別支援学校

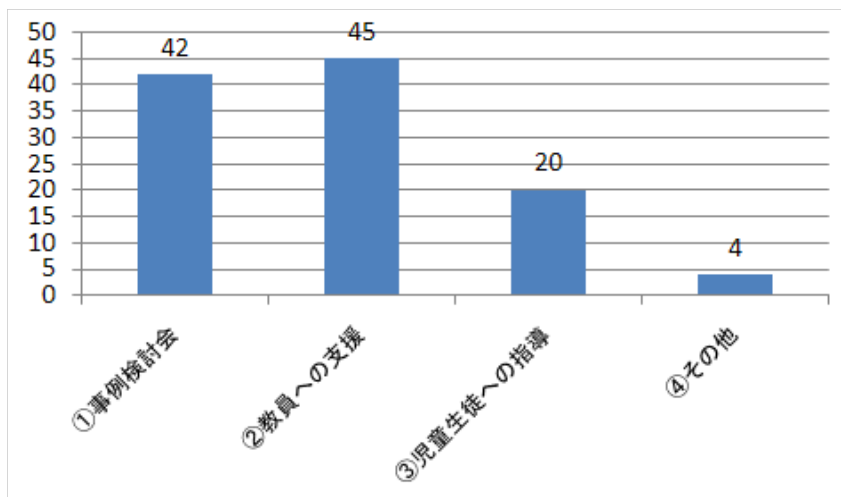


図4-6 専門職の活用方法（病弱）（グラフ内の数値は学校数）

(7) 複数の障害種を対象とする特別支援学校

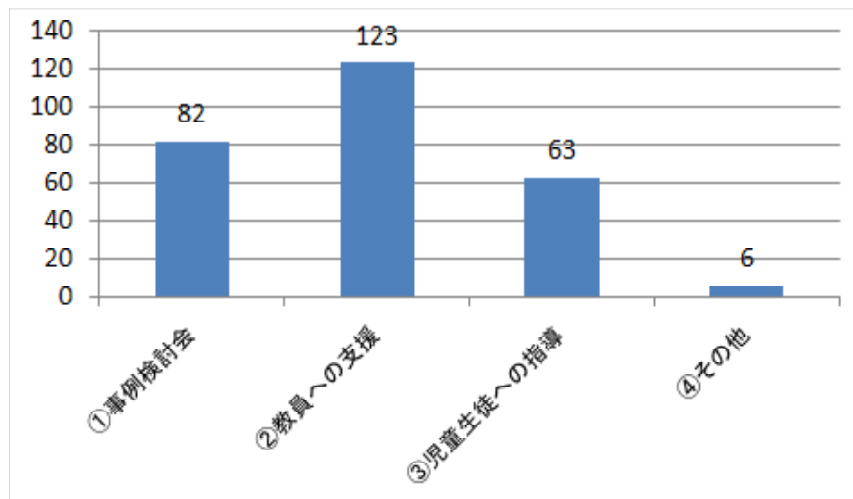


図4-7 専門職の活用の方法（全体）（グラフ内の数値は学校数）

第3部 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の状況

1. 在籍している児童生徒の障害の状況

在籍している児童生徒の障害の状況

複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の状況について、対応する障害種の区分毎（教育部門毎）に尋ねた。

①学校に在籍する小学部4年、中学部2年の児童生徒の障害の重なり状況を児童生徒が在籍する単一障害学級、重複障害学級の区分毎に尋ねた。

全特別支援学校（教育部門を含む）の児童生徒の障害の状況を学年（小学部4年、中学部2年）と在籍状況（単一障害学級、重複障害学級）毎に括った表で示した。

小学部 単一障害学級の在籍者																															
在籍者の総数 ↓	単一障害					障害の重なり状況																									
	視	聴	知	肢	病	視・聴	視・知	視・肢	視・病	聴・知	聴・肢	聴・病	知・肢	知・病	肢・病	視・聴・知	視・聴・肢	視・聴・病	視・知・肢	視・知・病	視・肢・病										
2583	31	194	1965	82	116	0	6	1	1	14	0	0	97	27	3	0	0	3	7	2	0	3	0	0	7	0	2	0	0	1	1
自閉症との重なり																															
	4	1	1124	0	10	0	1	0	0	4	0	10	7	8	10	0	0	1	2	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
LDとの重なり																															
	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ADHDとの重なり																															
	0	3	11	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別支援学校の小学部4学年単一障害の学級に在籍している者の総数を示している。																															
障害の重なり状況(単一障害を含む計31種類)毎の在籍者の人数を示している。																															
障害の重なり状況(単一障害を含む計31種類)毎に算出された在籍者について、自閉症との重なりのある者の人数を示している。																															
障害の重なり状況(単一障害を含む計31種類)毎に算出された在籍者について、LDとの重なりのある者の人数を示している。																															
障害の重なり状況(単一障害を含む計32種類)毎に算出された在籍者について、ADHDとの重なりのある者の人数を示している。																															

[表の見方の説明]

この表では、調査回答を得た全ての学校の小学部4年の障害の状況を整理している。

児童生徒の総数は、33名で、単一障害及び障害の重なり状況の組み合わせ31種類について、それぞれ該当する児童生徒の人数を示している。

数列の2段目は、上記31種類毎に、自閉症を併せ有すると思われる児童生徒の数を、3段目は、LDを併せ有すると思われる児童生徒の数を、4段目は、ADHDを併せ有すると思われる在籍者数を示した。

本調査では、各障害種及び障害種の重なり状況毎の人数については、各障害の重なり状況は、それぞれの障害の程度を問わず、その障害が認められる場合に、それらの障害の重なりとして、その人数を算出することとし、その障害があるかどうかの判断は、医師の診断や専門家の判断だけでなく、教師の観察によりその可能性があると思われる場合も含め、その障害について、学習上、生活上の困難があるもので、教育上の配慮や指導が必要なもの（特別支援学級や通級による指導の対象となる程度のもの）も含めてその人数を算出することを求めている。

なお、自閉症、LD、ADHDの内のいくつかを併せ有すると思われる者については、最も特徴的と思われるものを1つ選んで回答することとしている。

(1) 特別支援学校小学部4学年単一障害学級の在籍者

小学部 単一障害学級の在籍者																															
在籍者の総数 ↓	単一障害					障害の重なり状況																									
	視	聴	知	肢	病	視・聴	視・知	視・肢	視・病	聴・知	聴・肢	聴・病	知・肢	知・病	肢・病	視・聴・知	視・聴・肢	視・聴・病	視・知・肢	視・知・病	視・肢・病	聴・知・肢	聴・知・病	聴・肢・病	知・肢・病	聴・知・肢・病	視・聴・知・肢・病				
2583	31	194	1965	82	116	0	6	1	1	14	0	0	97	27	3	0	0	3	7	2	0	3	0	0	7	0	2	0	0	1	1
自閉症との重なり																															
	4	1	1124	0	10	0	1	0	0	4	0	10	7	8	10	0	0	1	2	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
LDとの重なり																															
	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ADHDとの重なり																															
	0	3	11	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表1-1 特別支援学校小学部4学年単一障害学級の在籍者の障害の重なる状況毎の人数

(2) 特別支援学校小学部4学年重複障害学級の在籍者

小学部 重複障害学級の在籍者																															
在籍者の総数 ↓	単一障害					障害の重なり状況																									
	視	聴	知	肢	病	視・聴	視・知	視・肢	視・病	聴・知	聴・肢	聴・病	知・肢	知・病	肢・病	視・聴・知	視・聴・肢	視・聴・病	視・知・肢	視・知・病	視・肢・病	聴・知・肢	聴・知・病	聴・肢・病	知・肢・病	聴・知・肢・病	視・聴・知・肢・病				
2673	0	4	347	14	8	4	42	12	0	68	23	18	885	254	10	5	3	0	75	10	5	24	2	0	155	6	39	0	1	4	13
自閉症との重なり																															
	0	6	188	2	3	0	4	0	0	8	0	2	45	91	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5	0	0	0	0	1	0
LDとの重なり																															
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ADHDとの重なり																															
	0	0	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表1-2 特別支援学校小学部4学年重複障害学級の在籍者の障害の重なる状況毎の人数

(3) 特別支援学校中学部2学年単一障害学級の在籍者

中学部 単一障害学級の在籍者																															
在籍者の総数 ↓	単一障害					障害の重なり状況																									
	視	聴	知	肢	病	視・聴	視・知	視・肢	視・病	聴・知	聴・肢	聴・病	知・肢	知・病	肢・病	視・聴・知	視・聴・肢	視・聴・病	視・知・肢	視・知・病	視・肢・病	聴・知・肢	聴・知・病	聴・肢・病	知・肢・病	聴・知・肢・病	視・聴・知・肢・病				
746	9	47	581	11	54	2	4	1	0	8	0	4	12	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
自閉症との重なり																															
	0	2	212	0	10	0	1	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
LDとの重なり																															
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ADHDとの重なり																															
	0	0	7	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表1-3 特別支援学校中学部2学年単一障害学級の在籍者の障害の重なる状況毎の人数

(4) 特別支援学校中学部2学年重複障害学級の在籍者

中学部 重複障害学級の在籍者																																
在籍者の総数 ↓	単一障害					障害の重なり状況																										
	視	聴	知	肢	病	視・聴	視・知	視・肢	視・病	聴・知	聴・肢	聴・病	知・肢	知・病	肢・病	視・聴・知	視・聴・肢	視・聴・病	視・知・肢	視・知・病	視・肢・病	聴・知・肢	聴・知・病	聴・肢・病	知・肢・病	聴・知・肢・病	視・知・肢・病	視・聴・肢・病	視・聴・知・肢・病			
2327	0	0	383	9	0	1	39	15	1	83	5	0	985	411	16	4	1	0	70	5	2	17	5	0	158	5	24	2	1	3	23	
自閉症との重なり																																
	0	0	233	0	0	1	3	0	0	5	1	0	37	137	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	5
LDとの重なり																																
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ADHDとの重なり																																
	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0

表1-4 特別支援学校中学部2学年重複障害学級の在籍者の障害の重なり状況毎の人数

2. 在籍している児童生徒の教育課程

在籍している児童生徒の教育課程

本調査では、在籍する単一障害学級、重複障害学級の区分毎に、在籍者の教育課程を4つのタイプに分けて該当する人数を尋ねた。

- ①小・中学校の教科等の各教科によって編成
小・中学校の各教科、道徳、特別活動、総合的学習などの時間で編成し、いわゆる「準ずる教育課程」を編成していることを示します。
- ②小・中学校の教科等の各教科（下学年）等によって編成
小・中学校の各教科、道徳、特別活動、総合的学習などの時間で編成し、各教科等の一部あるいは全部を下学年対応で教育課程を編成していることを示します。いわゆる「下学年対応」で編成していることを示します。
- ③知的障害者を教育する特別支援学校の各教科等によって編成
いわゆる「知的教科」で教育課程を編成していることを示します。領域・教科を併せた指導も、このタイプに含めています。
- ④自立活動を主として編成
いわゆる自立主の教育課程を編成していることを示します。

(1) 特別支援学校小学部4学年単一障害学級の在籍者（2032人）

小学部 単一障害学級の在籍者	
教育課程	人数
①小・中学校の教科等の各教科によって編成	330
②小・中学校の教科等の各教科(下学年)等によって編成	51
③知的障害者を教育する特別支援学校の各教科等によって編成	1534
④自立活動を主として編成	90
⑤その他	27

表2-1 特別支援学校小学部4学年単一障害学級の在籍者の教育課程のタイプ毎の人数

(2) 特別支援学校小学部4学年重複障害学級の在籍者（1696人）

小学部 重複障害学級の在籍者	
教育課程	人数
①小・中学校の教科等の各教科によって編成	0
②小・中学校の教科等の各教科(下学年)等によって編成	19
③知的障害者を教育する特別支援学校の各教科等によって編成	828
④自立活動を主として編成	765
⑤その他	84

表2-2 特別支援学校小学部4学年重複障害学級の在籍者の教育課程のタイプ毎の人数

(3) 特別支援学校中学部2学年単一障害学級の在籍者(176人)

中学部 単一障害学級の在籍者	
教育課程	人数
①小・中学校の教科等の各教科によって編成	95
②小・中学校の教科等の各教科(下学年)等によって編成	17
③知的障害者を教育する特別支援学校の各教科等によって編成	32
④自立活動を主として編成	32
⑤その他	0

表2-3 特別支援学校中学部2学年単一障害学級の在籍者の教育課程のタイプ毎の人数

(4) 特別支援学校中学部2学年重複障害学級の在籍者(1883人)

中学部 重複障害学級の在籍者	
教育課程	人数
①小・中学校の教科等の各教科によって編成	10
②小・中学校の教科等の各教科(下学年)等によって編成	43
③知的障害者を教育する特別支援学校の各教科等によって編成	1065
④自立活動を主として編成	689
⑤その他	76

表2-4 特別支援学校中学部2学年重複障害学級の在籍者の教育課程のタイプ毎の人数

調查票

特別支援学校における複数の種類の障害を併せ有する児童生徒に関する調査

この調査の回答に要する時間は、**約20分**を想定しています。
8月31日を目安として、回答をご返信・ご返送ください。



[専門研究B]「特別支援学校における障害の重複した子どもの一人一人の教育的ニーズに応じる教育の在り方に関する研究—特別支援学校における障害の重複した子ども一人一人の教育的ニーズに応じる教育の在り方に関する研究—現状把握と重複障害教育の枠組の検討—」

この調査は、第1部、第2部、第3部の3つ部分で構成されています。

- 第1部は、学校の基本的事項
- 第2部は、複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育体制に関する事項
- 第3部は、複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の状況に関する事項

ご回答いただく方は、**校長(分校長・分教室の長)**あるいは、**校長(分校長・分教室の長)**が指名する教職員で、本調査に関わる学校(分校・分教室)の状況を把握する立場にある方を想定しています。

回答欄

学校(分校)の名称と調査回答いただいた方(回答を取りまとめたいただいた代表者)の職名・担当・氏名

学校名 (及び分校・分教室名)	立					
※ 本校・分校・分教室の別が分かるように記述してください。						
回答者の 職名・担当・氏名等	職名	担当	氏名	E-mail		

「複数の種類の障害を併せ有する児童生徒」について

この調査では、児童生徒の障害の状況について、その障害の種類や程度に関わらず、また、在籍する学級が単一障害学級か重複障害学級かに関わらず当該の学校に在籍する児童生徒のうち、複数の種類の障害を併せ有する児童生徒を対象としています。ここでは、これらの児童生徒を総称して「複数の種類の障害を併せ有する児童生徒」と呼称します。

第1部 学校の基本的事項

1. 学校が対象とする障害種について

学校が対象とする障害種について、該当する所に○を記入してください。(調査時点で在籍者がいない場合にも記入してください。)

	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱
幼稚部					
小学部					
中学部					
高等部					

2. 複数の障害種を対象とする場合の教育部門等の設置などについて

複数の障害種を対象とする場合には、教育部門等の設置などについて、該当する所に○を記入してください。

①障害種毎に教育部門を設けている。	
②教育部門を設けていない。	
③その他 ()	

第2部 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育体制に関する事項

複数の障害の障害を併せ有する児童生徒の教育に関わる学校全体の状況についてお尋ねします。

1. 専門的知識や技能のある教員について

学校が対象とする障害種以外の障害について、該当する項目に○を記入してください。(※「記入についての説明」を参照してください。)

①視覚障害の専門的な知識や技能のある教員がいる。	
②聴覚障害の専門的な知識や技能のある教員がいる。	
③知的障害の専門的な知識や技能のある教員がいる。	
④肢体不自由の専門的な知識や技能のある教員がいる。	
⑤病気の専門的な知識や技能のある教員がいる。	
⑥自閉症の専門的な知識や技能のある教員がいる。	
⑦学習障害の専門的な知識や技能のある教員がいる。	
⑧注意欠陥多動性障害の専門的な知識や技能のある教員がいる。	

2. 専門職の活用について

専門職等の活用について該当する項目にその状況を記号で記入してください。

A:毎日勤務している B:定期的に関わっている C:必要に応じて関わっている D:関わっていない

①理学療法士(PT)	
②作業療法士(OT)	
③言語聴覚士(ST)	
④臨床心理士、カウンセラー等の心理の専門家	
⑤医師(障害に関わる専門医)	
⑥看護師	
⑦介護福祉士、介護ヘルパー等介護の専門職	
⑧学校が対象とする障害種以外の障害種を対象とする特別支援学校の教員	
⑨その他(

3. 児童生徒の教育に対応するための学校の指導体制について

上記の設問で、専門職等を活用している場合は、その活用の状況について、該当する項目に○を記入してください。

①専門的な知識や技能のある教師や専門職が参加する事例検討会を実施している。	
②専門的な知識や技能のある教師や専門職が指導を担当する教員への指導や助言などを行っている。	
③専門的な知識や技能のある教師や専門職が児童生徒への専門的な指導等を行っている。	
④その他(

4. 児童生徒の教育に対応するための施設・設備の整備について

児童生徒の教育に対応するために整備した施設・設備を記述してください。(※「記入についての説明」を参照してください。)

①視覚障害に対応した施設・設備	
②聴覚障害に対応した施設・設備	
③知的障害に対応した施設・設備	
④肢体不自由に対応した施設・設備	
⑤病気に対応した施設・設備	
⑥その他(

5. 児童生徒の教育に対応するための教材・教具の整備について

児童生徒の教育に対応するために整備した教材・教具を記述して下さい。(※「記入についての説明」を参照してください。)

①視覚障害に対応した教材・教具	
②聴覚障害に対応した教材・教具	
③知的障害に対応した教材・教具	
④肢体不自由に対応した教材・教具	
⑤病気に対応した教材・教具	
⑥その他(

6. 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育に関わる工夫

複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育で工夫していることについて記述してください。

7. 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育に関わる課題

複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育で課題となることについて記述してください。

8. 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育に関する研究に関する本研究所への意見や要望

複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の教育に関する研究について、本研究所への意見や要望がありましたら記入してください。

第3部 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の状況の回答欄の説明

→

5ページからの回答欄の説明

→

第3部は、複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の状況についてお尋ねします。

第3部の調査は、**小学部4年、中学部2年**を対象としています。

障害(教育部門)、学部学年(小学部4年、中学部2年)、学級の種別(単一障害学級、重複障害学級)毎に、回答欄のページを用意していますので、該当する回答欄に記入してください。

第3部 複数の種類の障害を併せ有する児童生徒の状況の回答欄には、2つの障害種の区分(教育部門)分の回答欄を掲載しています。(5ページ～8ページで1つの障害種の区分(教育部門)分、9ページ～12ページで、1つの障害種の区分(教育部門)分) 複数の障害種に対応している学校で、3障害以上の障害に対応している学校の場合には、恐れ入りますが、不足する分をコピーしてください。

【調査票の返送・返信先】 この調査票は、以下のようにご返信・ご返送ください。

(1)電子データ(Microsoft Excel)で返信の場合は、以下のE-mailアドレス宛へ、添付ファイルとして送信してください。

本調査専用アドレス → v-chofukuchosa@nise.go.jp ← 電子ファイルでは、ハイパーリンクとなっています。

(Vイ ハイホソ シー エイチ オー エフ ユー ケイ ユー シー エイチ オー エス エイ アットマーク エヌ アイ エス イー ドット ジー オー ドット ジェイ ピー)

(2)この調査票(紙媒体)をFaxで返信する場合は、以下のFax番号へ送信してください。

Fax番号 046-839-6919 (調査専用)

(3)この調査票(紙媒体)を郵便で返送する場合は、同封の返信用封筒にてお送りください。

〒239-8585 横須賀市野比5-1-1 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

教育研修情報部 主任研究員 大崎博史 TEL 046-839-6841 e-mail v-chofukuchosa@nise.go.jp
企画部 上席総括研究員 松村 勸由 TEL 046-839-6870 e-mail v-chofukuchosa@nise.go.jp

特別支援学校における複数の種類の障
害を併せ有する児童生徒に関する調査

調査のまとめ（速報）

平成 21 年度～ 22 年度
専門研究 B 「特別支援学校における障害の重複した子ども
一人一人の教育的ニーズに応じる教育の在り方に関する研究」

平成 22 年 11 月

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

